

第4回身寄りがない方への意思決定支援研修会 in 真和志・首里

講演：『患者本人と疎遠な家族との関わり方を考える』

～ナラティブアプローチ～

講師：琉球大学病院 地域・国際医療部 臨床倫理士 金城 隆展 氏

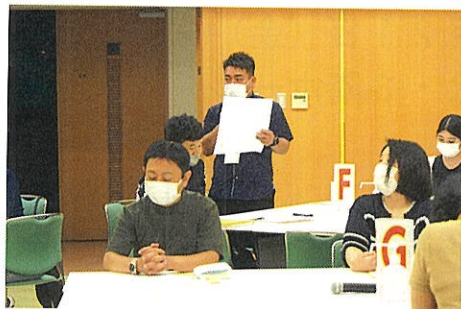
○日 時：令和5年7月21日（金） 午後7時00分～9時00分

○場 所：沖縄県医師会・3階ホール

○参加者：48名

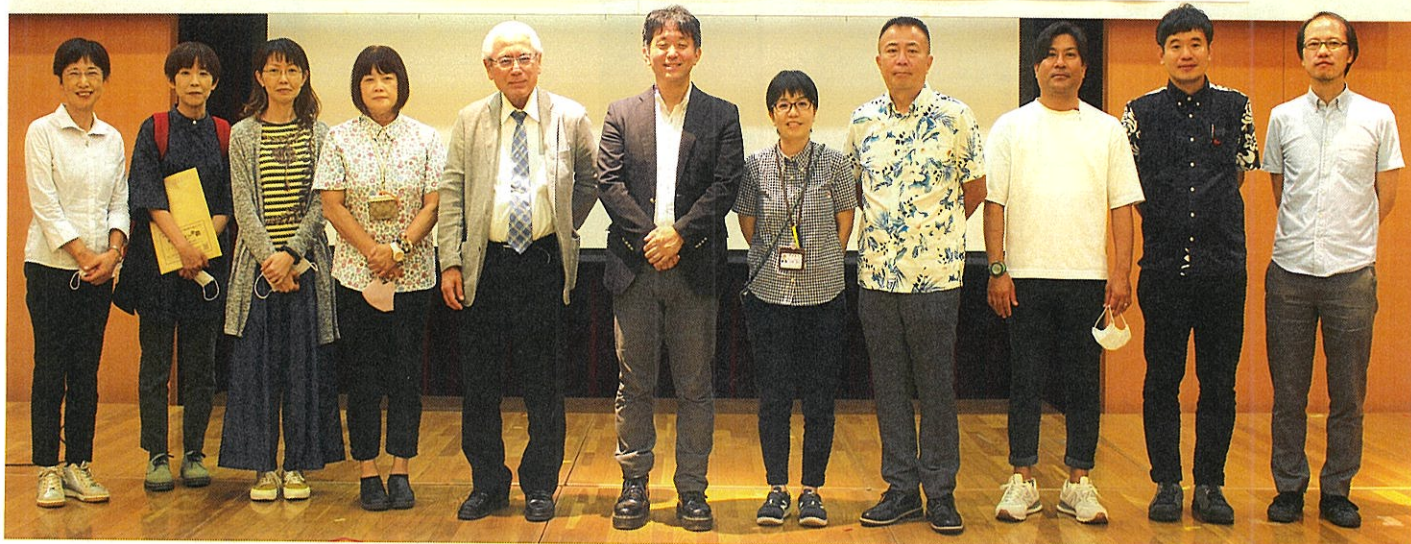
- 【目的】身寄りがない方（家族や親類へ連絡がつかない状況にある人、家族の支援が得られない人含む）が、人生の最終段階においても安心して必要な医療・介護が受けられる地域を目指し、事例に対する考え方についてナラティブアプローチを学ぶ。
- 【対象】病院（医師、看護師、MSW、リスクマネージャー）、訪問診療医、訪問看護師、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、行政職員など
- 【方法】那覇市内を2エリア（本庁・小禄地区、真和志・首里地区）に分け開催する。
- 【考察】参加された全員が参考になったとの回答があった。参加者より、「キーパーソン病という言葉が一番刺さりました」というご意見から、日本の医療者と家族は無意識に本人を置き去りにしている現状があると思われる。しかし、研修会を通して「閉ざされた質問ではなく開かれた質問をすることで、もっと早い段階で本人の意向・意思が見えたかもしれない。支援者の業務の効率化ではなく本人を中心とした情報収集の大切さを学んだ」、「意思決定ができない本人と決めつけるのではなく、本人を主体に本人をよく知っている友人を巻き込み、本人の幸福を追求していく医療者の態度を忘れたくないと思った」など、それぞれ専門職として今後どう利用者に関わっていくのか自分自身を見つめ直す機会になったと思われる。





身寄りがない方への意思決定支援研修会 ～ナラティブアプローチ～

主催：那覇市在宅医療・介護連携支援センター ちゅいしーじー那覇



日 時：令和5年7月21日（金） 19時00分～21時00分

場 所：沖縄県医師会・3階ホール

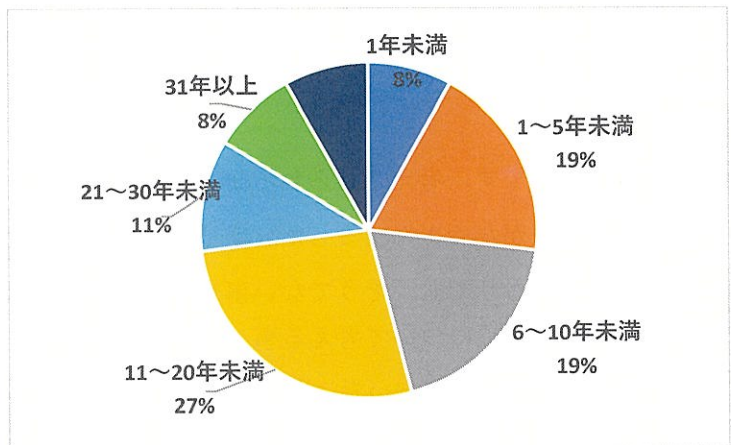
講 師：琉球大学病院 地域・国際医療部 臨床倫理士 金城 隆展 氏

参加者：48名

回答者：37名（約77%）

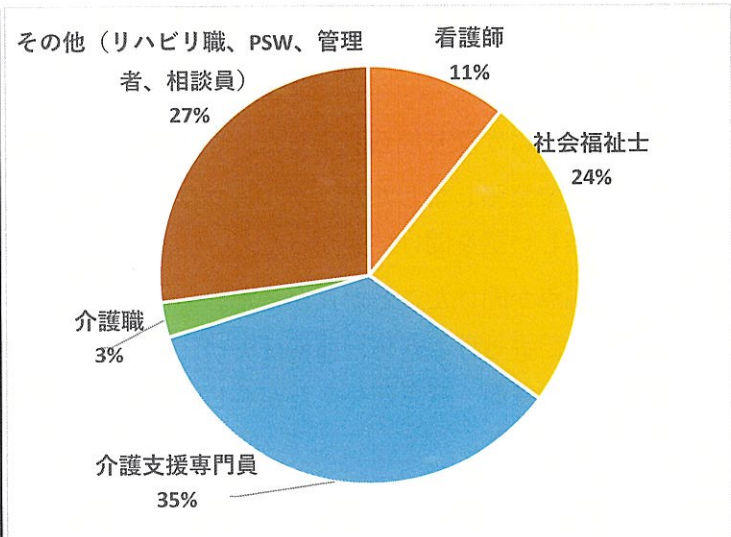
経験年数

選択肢	数	割合
1年未満	3	8%
1～5年未満	7	19%
6～10年未満	7	19%
11～20年未満	10	27%
21～30年未満	4	11%
31年以上	3	8%
無回答	3	8%
計	37	100%



問1. 職種について教えてください。

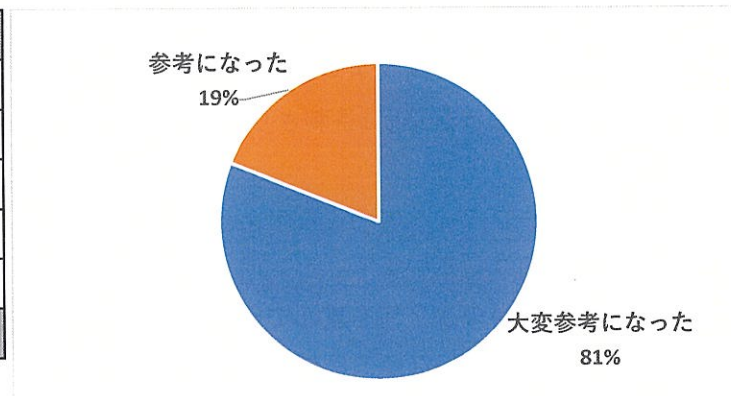
選択肢	数	割合
医師	0	0%
看護師	4	11%
保健師	0	0%
社会福祉士	9	24%
介護支援専門員	13	35%
介護職	1	3%
行政	0	0%
その他（リハビリ職、PSW、管理者、相談員）	10	27%
無回答	0	0%
計	37	100%



問2. 『患者本人と疎遠な家族との関わり方を考える ～ナラティブアプローチ～』

（臨床倫理士：金城 隆展 氏）は参考になりましたか。

選択肢	数	割合
大変参考になった	30	81%
参考になった	7	19%
まあまあ参考になった	0	0%
あまり参考にならない	0	0%
無回答	0	0%
計	37	100%



問3. グループワークはいかがでしたか。また、全体を通してご意見・ご感想等をお聞かせ下さい。

- ・職種が違うことで様々な視点から意見が出るので良いと思いました。
- ・その方の幸福は何か、その視点を大切にお一人お一人を支援することが大切だと学びました。
- ・様々な職種の方々と話が出来てとても良かったと思います。医・介・福祉職が話し合うグループワークのある研修は、お互いの立場や役割・視点が学べるのでとても良いと思います。最近、身寄りのない患者さん・利用者さんの支援が本当に多くなっていると感じます。本日のお話はとても参考になりました。本日の事例の方のように、いざという時にはなく現在の元気な状況で関わっている方から、普段からも本人さんの意思を拾うことは大切ですし心掛けようという気持ちになりました。繰り返しこのような学びが必要だと思います。
- ・とても良かったです。考えさせられる研修会でした。
- ・とても良い意見がたくさん出ました。盛り上がっていたのかな、無事に終わって良かったです。
- ・理解しているつもりでも、そうでない事や考えるプロセスについて勉強できたことがとてもありがたいです。相手の最大の幸福について考える事、どんどんしていきたいと思います。
- ・他職種の意見が聞けて良かった。それぞれの専門が異なるので参考になった。ナラティブアプローチ、尊厳について考えるきっかけになった。ついついパターナリズムに陥りがちなので、気をつけたいと思いました。
- ・意思決定ができない本人と決めつけるのではなく、本人を主体に本人をよく知っている友人を巻き込み、本人の幸福を追求していく医療者の態度を忘れたくないと思った。先生の言葉はハッとさせられて胸に響いた。
- ・大変難しい設問にかなり絞られました。いかに自分の視野が狭いか実感しました。
- ・初めての参加で緊張しましたが、グループワークを通していろいろな考えを皆から聞けて良かったです。先生のすごく楽しい話を聞けて良かった。
- ・いろいろな視点が聞けたことが良かった。
- ・最大限の倫理に近づくために連携は大切。閉ざされた質問ではなく開かれた質問をすることで、もっと早い段階で本人の意向・意思が見えたかもしれない。支援者の業務の効率化ではなく本人を中心とした情報収集の大切さを学んだ。
- ・自分の思考の偏り、考えの幅のなさ、柔軟性のなさを痛感しました。忘れずに業務に励みます。金城先生ありがとうございました。
- ・3つに分けた事例とグループワークがとても分かりやすく、いろいろな方の考え方を聞けて良かったです。
- ・事例が、今回のテーマを理解するのにとても役立った。いろんな職種の方とグループワークができ、自分以外の方の意見から勉強になりました。
- ・キーパーソン病という言葉が1番刺さりました。本人・家族にとって何が幸福なのかを考えることが大事だと思いました。
- ・多職種とのグループワークで色んな考え、スキルを知る事が出来ました。自分の考えを正す良い機会になりました。ありがとうございます。
- ・本人ならどうしたいのか？何を望んでいるのかを探ることが大切。キーパーソン病へ陥ることなく、本人の幸福を考えて本人の杖になってあげられるように支援していくことの大切さが分かりました。ありがとうございました。

第4回 身寄りがいない方への意思決定支援研修会 ～ナラティブアプローチ～ in 真和志・首里

- ・とても分かりやすく、一緒に考えながら研修を受けることが出来ました。良かったです。
- ・現場ではモヤモヤする事が多々あります。先生のアドバイスを聞き、ヒントになりました。ありがとうございました。
- ・日常の支援業務が目的に変わってしまっていて、利用者様の最大限の倫理に思いを馳せることが少なくなっていたと気付かされました。たくさんの気づきを本当にありがとうございました。
- ・事例をしながら検討することが出来て、とても勉強になりました。キーパーソン病が無意識にあたり前のような感覚でした。全体的に最大限の倫理について広がれば良いと思いました。
- ・本人の幸福論をどう考えるか、キーパーソン病になっていないか、プライバシーの領域を超えチームとして考えるきっかけになりました。とても良いグループワークでした。先入観にとらわれない、モヤっとした内容、話が盛り上がりました。多職種を超えて各視点も含め考える、見えない手（視点）も勉強になりました。
- ・グループワークでは、他者の考えを聞き詳しく確認することが出来て良かったです。ナラティブアプローチという影響を自己へ向ける手法、態度というものを知らなかったのが、大変勉強になりました。
- ・互いの意見を尊重し合えて、すごく有意義な話し合いでした。自分の見方と他者の見方が違うことは珍しいことではないと改めて分かることが出来て良かったです。
- ・いつでも陥ってしまうところがグループワークに挙がっていたので、反省しながら考える機会にもなりました。倫理について改めて考え職業としてある倫理を、その前に人としての倫理を考え続けていきたいと思った。スキルとナラティブなどどちらも必要であるが、場面によって発揮できることやベースとして持っておくことの大切さを感じました。キーパーソン病はいつでもついてくるので、視点・気持ちを新たに支援に活かしていきたいです。ありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。患者さんの声を聞くことの基本を忘れないようにしたいと思います。
- ・医療の視点や地域包括の視点での意見を聞けて勉強になった。今後、業務の中で本人の意思を尊重した介護をしていきたいと思った。
- ・金城先生の研修をもっと受けたいです。ナラティブアプローチについて、もっと詳しく知りたいです。
- ・不足を補い合いながら患者の幸福を目指す。素晴らしいです。努力します。
- ・本人を交えて、友人・ケアマネジャー、ご家族（誰と会いたい、話したい方）との話をする機会を設けることが大事だと思いました。どんな小さなことでも本人の希望や思っていることを聞いたのなら、連携体制で情報共有をしておけば本人の幸福度が上がるよう思考停止をしてはいけないと思いました。本人の物語や取り巻いている関係者の方々とのコミュニケーションで何をしたい、希望を読み取る力を勉強していきたいです。
- ・今回初めて参加しました。とても勉強になりました。皆さんの様々な意見や考え、金城先生のお話もとても良かったです。今後の考え方、姿勢の参考にしていきたいです。また参加したいです。
- ・慣れないこともあって、うまく自分の思いとか意見が出せませんでした。しかし、今後に繋げられる良い経験をさせて頂きました。ありがとうございました。
- ・キーパーソン病になっている自分に気づくことが出来ました。「患者さんの幸福について考え続ける」という先生の言葉が、とても印象深く考えさせられました。これからの支援に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・身寄りのない方への意思決定確認は、本当に難しい問題だと思います。自分も今回の事例と似た方の支援をしたことがありとても大変でしたが、幸いにも今回のように頼りになる友人との関係を繋ぐことが出来たことは良かったと思います。

